



神奈川県民ホール小ホール終演後、加戸理事長夫妻をかこんで

ごあいさつ

一般財団法人 黛民族舞踊文化財団

理事長 加戸 守行

もう30年以上も前のことになりますが、ドイツの有力紙フランクフルター・アルゲマイネの社説で「一国の文化の振興は経済の繁栄に依存する」とあるのを読んで、ルネサンス文化は富豪メディチ家に、ヨーロッパ文化は王侯貴族に、現代の文化は大企業のパートナーシップに負うところ大であるところからして、なるほどと頷いたものです。

昨年の政権交替により誕生した安倍内閣は、アベノミクスで、円安・株高に耳目を集めているが、経済政策がうまくいけば文化振興にも繋がるかと期待したい。

その中であって、当財団は、創設者黛節子先生の貴重な遺産を活用しながら、経済状況に関わりなく、何とか活動を続けて行けることに感謝しております。

本年も、黛民族舞踊団は、5月にマレーシアを訪問して交流を深め、7月に太田市新田エアリスホールにて、日本・マレーシア・インド3か国の競演会を主催し、平成26年3月29日には世界舞踊祭に参加します。

皆様方の変わらぬ御理解・御支援をお願い致します。

アジア民族舞踊交流会

2012年7月11日～7月21日



終演後、匂い袋を観客にさしあげた

【中国雲南省演劇院】

団 長	郭 維 平	趙 俊 敏	鄧 菜 莎	陳 姬
団 員	江 江 萍	張 和 燕	趙 春 芬	陳 楠
	俞 昆			
芸術監督	余 瑞 雲			

【韓国金梅子・康美利ハル舞踊団】

芸術監督	金 梅 子			
団 長	康 美 利	尹 炯 森	韓 知 恩	朴 惠 珍
団 員	田 承 煥	柳 玄 正	李 貞 化	徐 蘭 伊
	權 枚 定			

【黛民族舞踊団メンバー】

団 長	黛 琉美			
賛助出演	藤間 章吾	黛 莉香	黛 真也	黛 李穂
団 員	黛 智英	伊藤みつ子	田母神裕子	宇野あかり
	黛 圭	花 柳 翁 麗	花柳美緒衛	
	小島千佳子			

【スタッフ】

照 明	井上 正美・小熊 悦子
音 響	小林 史
舞台監督	八木 清市・松村 若奈・大成 俊介

アジア民族舞踊交流会の公演日程

2012年

- 7月11日（水） 成田空港着 都市センターホテルにて歓迎レセプション後、舞台打合せ。
7月12日（木） 赤坂区民ホールにてアジア民族舞踊交流会
7月13日（金） 東京発 9：00踊り子105号にて下田着、下田観光、稲取温泉にて一泊
7月14日（土） 伊豆稲取発 9：22踊り子102号にて東京着12：00、夜はディズニーランドにて世界の舞踊を取材
7月15日（日） 学習院創立百周年記念会館にて交流会準備、11：00リハーサル
13：00～14：00日本・中国・韓国舞踊の研究会・シンポジウム
14：15～16：15アジア民族舞踊交流会
7月16日（月） 浅草発7：40りょうもう3号にて9：01太田市着
太田市新田文化会館エアリスホールにてアジア民族舞踊交流会
7月17日（火） 太田市世良田小学校にて児童と舞踊交流
7月18日（水） 神奈川県民ホール小ホールにて9：00交流会準備、14：00リハーサル、
18：00アジア民族舞踊交流会
7月19日（木） 10：00日本・文化庁表敬訪問、13：30韓国大使館・14：15中国大使館表敬訪問
7月20日（金） 浅草、秋葉原買い物、18：00さよならパーティー（赤坂飯店）
7月21日（土） 成田空港より中国・韓国へ帰国

出演 中国雲南省滇劇院、韓国金梅子・康美利ハル舞踊団、黛民族舞踊団
主催 一般財団法人 黛民族舞踊文化財団
特別共催 公益財団法人 港区スポーツふれあい文化健康財団
共催 財団法人 太田市文化スポーツ振興財団
学習院大学生涯学習センター
後援 文化庁
中華人民共和国駐日本国大使館
駐日韓国文化院韓国大使館
日本中国文化交流協会

アジア民族舞踊交流会記録

今年は昨年の失敗をふまえ、訪日する舞踊団を早め
に決めてもらう為に、新年早々中国に連絡を入れた。
しかしなかなか返事がもらえず、何度もFAXのやりと
りをして、やっと舞踊団が決まったのが5月頃。それ
からビザの問題があって来日可能になったのは6月20
日頃だった。

7月11日（水）

本日は、訪日団を迎えるため成田空港へ出発。韓国
の舞踊家達は元気で11時頃成田に着いて、中国の人達
を待つため空港近くの見物に出かけた。1986年（第一
回）に訪日した三人の舞踊家達を同行して、大勢の中国
舞踊家が到着。ロビーでお互いに抱き合い再開を喜び
あった。バスから見る日本の風景を楽しみながら日本
のスタッフが待つ都市センターホテルへ到着。レスト
ラン「アイリス」で歓迎会を開く。日本の食事がおい
しいと喜ぶ。日本側スタッフと翌日からの細かい打ち
合わせをする。

舞踊団は各自の舞台用品を整理し、明日からの荷物
と分け、各自ホテルの自室に入る。



傘踊り（日本）

7月12日(木)

赤坂区民ホールにて9時公演準備、14時リハーサル、18時最初のアジア民族舞踊交流会が始まる。

日本・中国・韓国ともはりきって、素晴らしい舞台を演出した。

7月13日(金)

東京駅9時発の踊り子105号に乗って伊豆下田へ取材旅行に出発。途中伊東を過ぎると、太平洋の一部が姿を現す。楽しみにしていた富士山は雲の中で見えず、残念だった。昼食はトンカツ定食ですませ、14時発の黒船に乗って伊豆の海を回遊。カモメがたくさん飛んで来て、中国・韓国の舞踊家はエサをやるなど大喜びで、写真を撮り、楽しい船旅を終えた。その後唐人お吉で有名な玉泉寺、了泉寺、宝福寺をまわって水族館でイルカショーを見学。下田駅に戻り、伊豆急で稲取駅へ向かう。支配人の出迎えをうけて稲取温泉に到着。

日本食、洋食をまじえた豪華な食事と、日本のおいしい酒でふるさとの唄など、中国・韓国、交互に唄いわけて一夜を過ごした。



伊豆にて

7月14日(土)

早朝、よく晴れ上がった伊豆大島などを見渡せる海を眺めて、8時に朝食を済ませ、伊豆稲取9時22分発の踊り子102号に乗車、東京着12時。

午後は自由行動で買い物、夜はディズニーランドで世界の民族舞踊を見学。楽しい一日。

7月15日(日)

学習院創立百周年記念会館に到着後9時、交流会準備。13時から14時までアジア民族舞踊交流会研究会のシンポジウムを開催。諏訪春雄学習院大学名誉教授の司会で、日本・中国・韓国の舞踊団の団長がパネラーとして参加し、各代表国の歴史の紹介から始まり、パネルディスカッションに入る。

日中韓の団員による実技を交えながら、基礎訓練についてと、伝統の保存と現代化について討論された。シンポジウム終了後、14時15分よりアジア民族舞踊交流会がスタート。お客様が多くおみえになり一安心であった。

7月16日(月)

全員7時40分浅草発東武伊勢崎線の特急で群馬県太田市へ向かう。太田グランドホテルに荷物を置き、15時、太田市新田文化会館エアリスホールにてアジア民族舞踊交流会開催。今年は満席になり、一同喜んだ。

太田グランドホテルで18時より、太田市の関係者が出席し、交流の話。太田市の事など色々語られて、夕食会は楽しく終了し、各自スーパーへ買い物に出る。

7月17日(火)

当日はエアリスホール差し回しのバスで太田市世良田小学校へ到着。児童と舞踊交流をした。皆一生懸命おぼえてくれた。その後、新田義貞にかかわる東毛歴史資料館を訪問。館長の案内で原始・古代・中世・近世・現代と移りゆく日本歴史の一端の説明を受ける。

太田より18時の東武特急で浅草まで帰り、夕食はてんぶらを頂き、浅草見物してからホテルに戻る。



学習院大学・諏訪名誉教授



日本・中国・韓国の代表がパネラーとして参加



アジア民族舞踊交流会の司会 中国・韓国の団長を紹介

7月18日(水)

大野先生が館長をしていた思い出の神奈川県民ホール小ホールにて、9時より交流会準備、14時リハーサル。18時よりアジア民族舞踊交流会開催。

本日は加戸理事長ご夫妻が本番を観て下さり、皆大喜びだった。終演後、ロビーで理事長を囲んで記念写真を撮った。

7月19日(木)

10時、文化庁長官に表敬訪問。

11時30分、韓国は韓国大使館へ、14時15分中国は中国大使館へ表敬訪問。夜は自由行動で浅草、秋葉原などへ買い物に出かける。

7月20日(金)

18時より加戸理事長を迎えて赤坂飯店でさよならパーティーを開催。

加戸理事長より中国・韓国・日本の舞踊家たちは、うれしいお言葉を頂き、各国代表もそれぞれ挨拶をして乾杯。それぞれの思い出話に花を咲かせ、お土産交換。黛からは皆様へ資生堂化粧品セット、中国からは綺麗な小物バック、韓国からは扇と民芸品、皆お国自慢の物が配布され大喜び。

パーティー終了後皆、黛アートサロンで日本最後の夜をひと騒ぎしてホテルへ帰った。

7月21日(土)

中国・韓国共に成田空港より帰国。

こうして第14次日中韓のアジア民族舞踊交流会を無事に終えた。



文化庁長官代理に中国よりおみやげ



文化庁長官代理に韓国よりおみやげ



花腰タイ舞踊(跳南嘎)(中国)

交流会プログラム

第一部

1. **傘おどり**（日本・鳥取県）
貝殻節（元唄賀露:もとうたかろ）の曲に鳥取地方の民俗芸能・傘踊りをもとに創作しました。力強くたくましい賀露の漁師たちの心意気を踊り、地元で作られた大きな傘で表現します。
2. **古典戯曲舞蹈（長袖ゆらゆら）**（中国）
長い袖の踊りは中国戯曲の基本的な技術の一つです。古典的な女性の美を表現しています。
3. **尖袖舞**（韓国）
朝鮮王朝末期の郷楽呈才（朝鮮固有の音楽で宮中の宴会などで行う踊りの歌）の一つで袖の詰まった衣裳を着て舞う剣舞。
4. **魚津せり込み蝶六**（日本・富山県）
せり込み蝶六とは、魚津新川地方の口説節である。
魚津は日本海に面した漁場、大漁旗が風に舞う漁師達の心意気と喜びをちょぼくれのリズムに乗って踊ります。
5. **舞蹈（美しい足）**（中国）
若い男性が纏足のお婆さんを扮して、走行の不便さを表現し、時代の進歩によって女性は纏足から解放され、自分の足で社会進出できるようにになり、そのうれしい気持ちを表現しています。
6. **閑良舞**（韓国）
朝鮮時代、身分は高いが官職に就かず風流を楽しむ粋な遊び人をさして閑良と呼びました。この踊りは男性貴族の風貌で扇を巧みに使い、粋な味を醸し出しています。迫力ある振りと深みのある呼吸で、静・中・動を見事に表現しています。
素朴でありながら粋であるのが特徴で、風流を楽しむ姿を表す舞です。また一般的な宮廷舞踊と違い、民族的特色を持った時代性を鋭く風刺した舞踊といえます。
7. **山中節**（日本・石川県）
北陸・石川県の代表的民謡で、日本的な美しいメロディーにのせて山あいの霧が湧いては散っていくように流れるような情緒あふれる踊りです。
8. **古曲舞蹈（俏花旦）**（中国）
“俏花旦”は中国伝統戯曲中の女形の一つです。主に天真爛漫の少女を表します。中国伝統戯曲の独特な表現が見所です。
9. **珍島太鼓舞**（韓国）
農楽の中の太鼓舞から派生された踊りです。華麗な太鼓のリズムと振りを基本に、自由自在に駆使した即興性と神明をパターンにこの踊りが繰り広げられます。強烈なビートとともに、多様で柔軟なバチ捌きが男性的な強さと同時に女性的な繊細さが混じりあう、独特な魅力をもつ演目です。

第二部

1. **彝族舞蹈（打歌）**（中国）
彝族は歌舞に長けている。彝族舞踊は情熱奔放です。“打歌”は彝族青年が愛情を表現する方式の一つであり、芝笛を吹きながら踊って愛情を表現し、意中の人を探す踊りです。
2. **越中おわら**（日本・富山県）
越中八尾地方で9月1日から3日まで、“風の盆”と呼ばれ町をあげて踊られる盆踊り。この盆踊りをもとに、男女の出会いと別れを表現した日本の情緒溢れる作品です。
3. **興夫歌**（韓国）
興夫歌（フンブガ）は、貧しく利口なフンブと、欲深い兄・ノルブの兄弟の話を素朴にしたパンソリです。創作舞・興夫歌は、パンソリの「興夫歌」の中からお宝がザクザク出てくる下りに焦点をあてた作品だ。貧しいフンブがひょうたんから米と金を思う存分かき出し喜びに満ちて、興奮する姿を表現した舞踊です。この踊りは、貧困と飢えから抜け出した解放感を表し、懐が深く人に施す事のできる人格を持つフンブの姿を描いています。
4. **タイ族舞蹈（邵多麗）**（中国）
“邵多麗”はタイ語で未婚の綺麗な少女を指しています。舞踊は三人の女性が幸せの未来への憧れを表現しています。
5. **處容舞**（韓国）
新羅時代の處容伝説から由来する仮面踊りです。邪気を払う儀式舞踊で、仮面から感じる印象が少し微笑んでいて人情味、多情感、親近感を持たせています。踊りの内容が、陰・陽五行説の基本精神を抱いたからこそ、五人が各五方色、青（東）、赤（南）、黄（中央）、黒（北）、白（西）の衣裳を着て舞う演目で、重要無形文化財第39号に指定されています。今回は再構成して黄（中央）一人で踊ります。

6. 寸劇（玉の腕輪の恋）（中国）

美少女孫玉嬌が青年傅朋に一目ぼれ、一つの玉の腕輪を巡るやり取りで、少年少女の間の慕情を表します。

7. 小鼓舞（韓国）

農楽を基にした民族舞踊で、長い間庶民に愛されている祭の時踊った演目です。振り付け、衣裳は、女性がチマチョゴリを着て、昔の妓生（キーセン）時代の置屋を思い出させるものです。ゆっくりなリズムから始まり、段々早いリズムに変化してゆき、遊びっ気たっぷりに構成されています。

8. 花腰タイ舞踊（跳南嘎）（中国）

“花腰タイ”はタイ族の支系で、“南嘎”はタイ語の“竹”を表しています。舞踊はリズム軽快、情熱奔放、タイ族青年男女が幸福の生活を追及する心情を表現しています。

9. 巫女舞／からす三番／祝い舞（日本）

〔巫女舞〕岩手県早池峰の麓に残ります、山伏神楽、その中の湯立ての煮えたぎる湯を笹につけては四方をはらい、幸を願う巫女舞があります。2本の笹を手にして踊り、四方をはらい清め、幸への祈りをこめて踊るのがこの巫女舞です。

〔からす三番〕相崎の山間に慶長年間より伝わるといわれる三番叟。田きよめの男が種をまく、それをついばむカラスのいともなごやかなユーモラスな踊りです。

〔祝い舞〕

（花田植）東北仙台市の郊外の秋保地区に伝わる民俗芸能で、豊年を願い、一心の祈りを込めて苗を植える乙女達の姿を踊りにしたものです。

（豊年舞）土に生きた私達の祖先にとっては、豊かな稔りこそこの上ない喜びだったに違いありません。その豊年を祝い祈る踊りこそ、舞踊のエネルギーの原点とも云えます。豊年の喜びを歌い上げた踊りです。

——交流会の舞台より——



山中節（日本）



さよならパーティーにて加戸理事長ご夫妻を囲んで



小鼓舞（韓国）



さよならパーティー

——交流会の舞台より——



寸劇(玉の腕輪の恋)(中国)



魚津せり込み蝶六(日本)



珍島太鼓舞(韓国)



タイ族舞蹈(邵多麗)(中国)



彝族舞蹈(打歌)(中国)



越中おわら(日本)

—交流会の舞台より—



古曲舞蹈(俏花旦) (中国)



興夫歌 (韓国)



閑良舞 (韓国)



古曲舞蹈(俏花旦) (中国)



舞蹈(美しい足) (中国)



處容舞 (韓国)

——前進座・世界の踊りを楽しもうの舞台より——



ややこおどり



はねこ踊り



ねんぶつおどり



ディキール・プトゥリ(マレーシア)



はねこおどり



タッパアッタム(インド)

世界舞踊祭に参加

2012年11月23日（金）赤坂区民ホール

茨城大学教授国枝たか子先生主宰の「世界舞踊祭」が、今年も港区赤坂区民センターで開催された。

この催しは世界各国の民族舞踊を中心に出演団体はプロとアマチュアが混じった構成で幅広いジャンルの舞踊グループが出演した。



巫女舞



カラス三番

黛民族舞踊団今年のプログラム

代表	黛 琉美			
賛助出演	藤間章吾			
団員	黛 智英	黛 莉香	黛 真也	
	黛 李穂	伊藤みつ子	五月女華舟	
	小島千佳子	花柳翁麗		

- | | |
|-----------------|-------|
| (1) 会津磐梯山 | (福島県) |
| (2) 深川節 | (東京都) |
| (3) 越中おわら | (富山県) |
| (4) 巫女舞 | (宮城県) |
| (5) 祝い舞・花田植・豊年舞 | (宮城県) |

鳳仙功舞踊フェスティバル (日中朝舞踊交流会)

2012年12月9日(日) 前進座劇場

前進座といえば昔から皆様に親しまれた劇場です。その劇場が来年3月には閉館になるという悲しいお知らせを閻先生から受けて、最後に一緒に踊りましょうよということになり黛舞踊団もたのしいお舞台をお見せすることになりました。

代表	黛 琉美					
団員	黛 智英	黛 莉香	黛 真也	黛 李穂	黛 圭	伊藤みつ子
	花柳翁麗	花柳美緒衛				
賛助出演	藤間章吾					
曲目	や、こ踊り	傘おどり	カラス三番	巫女舞	祝い舞	

「世界の踊りを楽しもう」 ～フォークダンス教えあい・踊りあいの会～

世界舞踊祭を通して、世界中の民族舞踊のすばらしさを知った舞踊家たちはもっとお互いに交流しようと「自国の踊りを教えあう会」を企画しました。

第1回 2012年11月11日(日) 黛アートサロン

はねこ踊り(日本)、ディキール・プトゥリ(マレーシア)、タッパアットム(南インド)

3曲ともテンポの良い曲で、普段踊り慣れているはずの舞踊家たちも予想外に息が上がりましたが、皆楽しい時間を過ごしました。

第2回 2013年3月17日(日) 黛アートサロン

ウォッロ(エチオピア北部)、ディキール・プトゥリ(マレーシア)

マシンコ(エチオピアの一弦ヴァイオリン)の憂いを帯びた旋律に乗って、首・肩・胸を激しく揺さぶる躍動感あふれるダンスでした。



前進座の花道で踊る「ややこ踊り」

一般財団法人

黛民族舞踊文化財団のあらまし

一般財団法人黛民族舞踊文化財団は、我が国伝統の民族舞踊を舞台芸術として確立し、その普及向上を図るとともに国際文化交流を行うことを目的として、昭和61年3月文部大臣から設立を許可された法人です。

財団設立後は、(1) 民族舞踊普及向上のための中央における公演をはじめ、地方巡業公演を活発に行ってひろく一般にこれを紹介し、また研究成果の発表会等を開催し、(2) 後継者の育成を目的として民族舞踊の研究者(音楽、振付けを含む)、舞踊家のための研究会、研修会等を開催して創造活動を奨励すると共に技能の向上を図り、(3) 日本各地および中国・韓国・東南アジア諸国の民族芸能を取材し、その研究を行うと同時に収集した資料を整理保存して一般にこれを提供し、将来は資料館を設立して一般の利用に供することを計画しています。また、(4) 世界各国にはそれぞれ民族舞踊団が国家の庇護のもとに活動していますが、これら舞踊団との交流や、中国・韓国・東南アジア諸国の民俗芸能伝承者たちとの交流等、幅ひろい国際交流を推進して相互の連携と研鑽につとめ、(5) 民族舞踊、民族芸能に関する資料および研究成果等の出版物を刊行して、民族舞踊に対する理解を深める目的達成のため、年次を追って事業を充実していきたいと考えております。

しかしながら、事業を発展充実させていくためには、何と申しましても経済的基盤を確立する必要があることを痛感いたしております。

当財団が、真にわが国を代表する民族舞踊の振興団体として育ってまいりますよう、財団の事業目的をご理解くださり、各界の方々の御支援を心からお願い申し上げます。

つきましては、当財団には賛助会員規定を設けておりますので、皆様にはぜひ賛助会員として、会費により御支援を賜りたく、お願い申し上げます。

民族舞踊文化 No. 25 2013年5月7日発行 発行人 加戸 守行 編集 加戸 守行

〒107-0052 東京都港区赤坂3-10-3 黛ビル4F TEL 03-3583-3633(代)

一般財団法人黛民族舞踊文化財団

FAX 03-3583-3639

THE MAYUZUMI FOUNDATION FOR TRADITIONAL FOLK DANCE

MAYUZUMI BLD 4F, 3-10-3, AKASAKA, MINATOKU, TOKYO